

歴史を歩く ①

町文化財紹介コーナー

よこせこふん 「横瀬古墳」



▲横瀬古墳（約 1500 年前に建造された巨大前方後円墳・昭和 18 年 9 月に国の重要文化財に指定）

横瀬古墳は、古墳時代中期後葉（今から約 1500 年前）に建造された巨大前方後円墳。もともとは、『大塚古墳』と呼ばれていたが、県内最大の前方後円墳である東串良町の唐仁大塚古墳と混同しないよう横瀬古墳と呼ばれるようになった。大きさは長さ 128メートル（地中に埋もれている部分を含めれば 132メートル）で、県内で 2 番目に大きいとされているが、全国レベルでも大型の古墳に位置づけられている。国の重要文化財として指定を受けており、南九州を代表する遺跡である。

通常古墳には樹木が生い茂り、外形が分かりづらい場合が多いのだが、横瀬古墳の場合、樹木の植生が少なく、外形を観察できるため、全国から訪れる人も多く、観光のスポットとしても名高い。明治 35 年に石室が盗掘に遭い、その際腐食した直刀、鎧、勾玉が出土し、石室の内部が朱で塗られていたということが証言されている。これまでの調査で、墳丘の周囲に埋没した濠が存在することが確認されている。濠を含めると約 160メートルの長さに及ぶ。

墳丘の本格的な調査がまだ行われていないため、石室がどのように残っているのか、埋葬者が誰なのか分かっていない。ただ、政治力、経済力、技術力、軍事力の総結集とも言うべき大型古墳を造ることができるといえる。しかしながら、そのような人物がなぜ日本の中心から遠く離れたこの場所に眠っているのか謎である。土を盛り上げて造る高塚墳は、大和政権（大和Ⅱ現在の奈良県をはじめとする近畿地方の勢力が大王を中心に形成した政治的連合）がもたらした文化である。県内でも志布志湾岸から国見山麓にかけて、この高塚墳が多く見られるのは、当時この一帯が、大和政権の支配下に置かれたからだと言えよう。その中で、横瀬古墳のような大型の古墳を造りあげた人物がこの地にいたというのは、この地域の支配が大和政権にとって重要であったことを意味する。

最近の発掘調査で、古墳が現れる以前から九州北部や瀬戸内地方との交流を示す土器が発見されている。このことから古墳時代以前より志布志湾岸が海上交通の要として確立されていたのではないかと考えられる。大和政権がこの海上交通の要を手中に置くことは、政治的にも、経済的にも南九州支配に必要不可欠だったのではないかと。現在に至って、のどかな田園や畑地が広がるこの地域が、かつてはどのようなドラマチックなところであった事は、地元にあつて意外と知られていない。しかし、横瀬古墳はその歴史の証人として確かに存在しているのである。

文・大崎町埋蔵文化財専門員（内村

引揚者のみなさまへ

税関では、終戦後、外地から引き揚げて来られた方々からお預かりした通貨や証券類をお返ししています。お返しする通貨等は次のものです。
①終戦後、外地から引き揚げて来られた方々が、上陸地の税関・海運局に預けられた通貨・証券など
②外地の集結地において、総領事館、日本人自治会などに預けられた通貨・証券などのうち、その後日本に返還されたもの
お預かりした通貨等の半数以上は、返還のお申し出がなく、現在も税関に保管されたままになっています。これらの返還については、ご本人だけでなく、ご家族の方も請求することができます。お心当たりの方は、お気軽に税関へお問い合わせください。

【問い合わせ先】長崎税関監視部（フリーダイヤル）0120- 828- 680



▲朝鮮銀行券（100 円札）



▲台湾銀行券（10 円札）



▲満州中央銀行券（10 円札）

税関で保管している通貨・証券の一部を紹介します。



▲満州儲蓄債権



▲軍票（20 円札）